

(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678  
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230

## アトピー性皮膚炎について

### アトピー性皮膚炎の病態

アトピー性皮膚炎は強いかゆみを伴う湿疹ができる病気で、よくなったり悪くなったりの症状を繰り返します。患者さんの多くは家族や本人に気管支喘息、アレルギー性鼻炎・結膜炎、アトピー性皮膚炎の病気の経験があったり、IgE というアレルギーに関係する物質を産生しやすいといった原因をもっています。

アトピー性皮膚炎は子供に多い病気です。約 80%が 5 歳までに症状がでるといわれています。大人のアトピーは、「小児期からの継続しているタイプ・小児期のアトピーは一時治り、成人になり再発したタイプ・成人になってから発症したタイプ」といった 3 タイプに分けられ、皮膚症状は特に顔や首、手などに現れます。

症状の現れやすい部位は、年齢によって異なります。

- ・ 2歳未満・・・顔や頭に現れることが多く、ひどくなると胸や背中にも広がります。
- ・ 2歳以上・・・胸や背中その他、特に首や、肘の内側、膝（ひざ）の裏側などに現れます。

いずれの年代でも、基本的に左右対称に現れるのが特徴です。

アトピー性皮膚炎の状態は季節によっても違ってきます。

- ・ 夏・・・汗を多くかくことで、あちこちが痒くなり病状が悪化します。
- ・ 冬・・・肌の乾燥による痒みにより病状が悪化します。



### アトピー性皮膚炎の原因

アトピー性皮膚炎は、もともと持っている「体の要因」に、外から皮膚を刺激する「悪化要因」が加わることで起こると考えられています。

| 体の要因  | 悪化要因  |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>アレルギー</b>・・・アレルギーを起こしやすい体質が関係しているといわれています。</li> <li>・ <b>皮膚のバリア機能の異常</b>・・・バリア機能に異常が生じると、アレルギー（アレルギーの原因）などが容易に侵入したり、さまざまな刺激を受けやすくなり、アトピー性皮膚炎が起こりやすくなります。子供はまだ、皮膚の働きが未熟なため、バリア機能の異常が起こりやすいといえます</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>アレルゲン</b>・・・食物やダニなど</li> <li>・ <b>汗</b>・・・汗に含まれるなんらかの成分が皮膚を刺激すると考えられています。</li> <li>・ <b>皮膚をかくこと</b>・・・皮膚が傷ついたり、痒みが増したりして病状が悪化します。</li> <li>・ <b>化学物質</b>・・・原因となる化学物質は、大気中・水道水・加工食品・衣類・建材などあらゆる場所に使われています。</li> <li>・ <b>ストレス</b>・・・子供の場合、叱られたり、腹が立ったときなどに症状が悪化するとの報告があります。</li> </ul> |

## アトピー性皮膚炎の治療

アトピー性皮膚炎の治療には、「悪化要因の除去」「スキンケア」「薬物療法」の3つがあり、患者さんはこの3つに同時に取り組むことが大切です。

### ◎悪化要因の除去

悪化要因をできるだけ取り除くようにします。アレルギーに対しては、何がアレルギーかを調べる検査を受け、適切に対処することが大切です。

### ◎スキンケア

家庭で以下のようなスキンケアを行い、皮膚のバリア機能を保つようにします。

- ・皮膚をかかせない・・・かゆいところを衣服で覆うなどの工夫をしましょう。
- ・かゆみを減らす・・・室温を下げる、薄着をするなどして皮膚の温度を下げると、かゆみが軽減されます。
- ・清潔を保つ・・・汗や汚れを落とし、皮膚を清潔に保ちます。汗を多くかく時期には、シャワーを浴びるのが効果的です。ただし、石鹸でゴシゴシ洗うのは皮膚に刺激を与えるため洗いすぎには注意が必要です。
- ・保湿、保護・・・入浴やシャワーのあとに保湿剤を使って皮膚の手入れを行い、乾燥を防ぎます。主な保湿剤には、ワセリンやヘパリン類似物質含有軟膏などがあります。

### ◎薬物療法

薬物療法には外用薬と内服薬が使われます。

外用剤は、皮膚の炎症を抑えることを目的に使われます。その中心がステロイド外用剤です。ステロイド外用剤は下の表のように強度により5段階に分かれ、重症度に見合ったランクの薬を適切に選択することが重要です。

乳幼児、小児では原則的に1ランク低いステロイド外用薬を使用し、顔面には原則としてクラスⅣ（普通の強さ）以下のステロイド外用薬を使用するといった注意があります。また、効果の強い薬なので、塗る量や回数を守って使用する必要があります。最近では、免疫抑制外用剤のプロトピックも使われるようになっていきます。

|             |   |
|-------------|---|
| ランクⅠ（一番強い）  | デルモベート軟膏  |
| ランクⅡ（かなり強い） | リンデロンDP軟膏/クリーム  |
| ランクⅢ（強い）    | ケリグロール軟膏/クリーム   |
| ランクⅣ（普通の強さ） | ロコイド軟膏/クリーム   |
| 合剤          | 強力レスタミンコーチゾン軟膏（抗ヒスタミン薬と抗生剤との合剤）<br>デルモゾールG軟膏（抗生剤との合剤） |

内服薬（抗アレルギー薬と抗ヒスタミン薬）はかゆみを軽減するお薬です。他にも免疫抑制剤や漢方薬などが使われます。

|               |  |
|---------------|--|
| 抗ヒスタミン薬       | ・ネオマレルミン錠<br>・ペリアクチン散                            |
| 抗ヒスタミン薬＋ステロイド | ・セレスターナ配合錠                                       |
| 抗アレルギー薬       | ・アレナピオン錠<br>・ケトテンカプセル/ドライシロップ<br>・メキタジン錠/ドライシロップ |



文責：鈴木（実習生）